

黒石市まち・ひと・しごと創生 総合戦略・人口ビジョン 概要版

— 黒石^{りょく}力(=コミュニティ力^{りょく})
あふれる黒石市で暮らしませんか —

平成28年3月



発行

黒石市

黒石市企画財政部企画課
〒036-0396 青森県黒石市大字市ノ町11-1
☎0172-52-2111
<http://www.city.kuroishi.aomori.jp/>

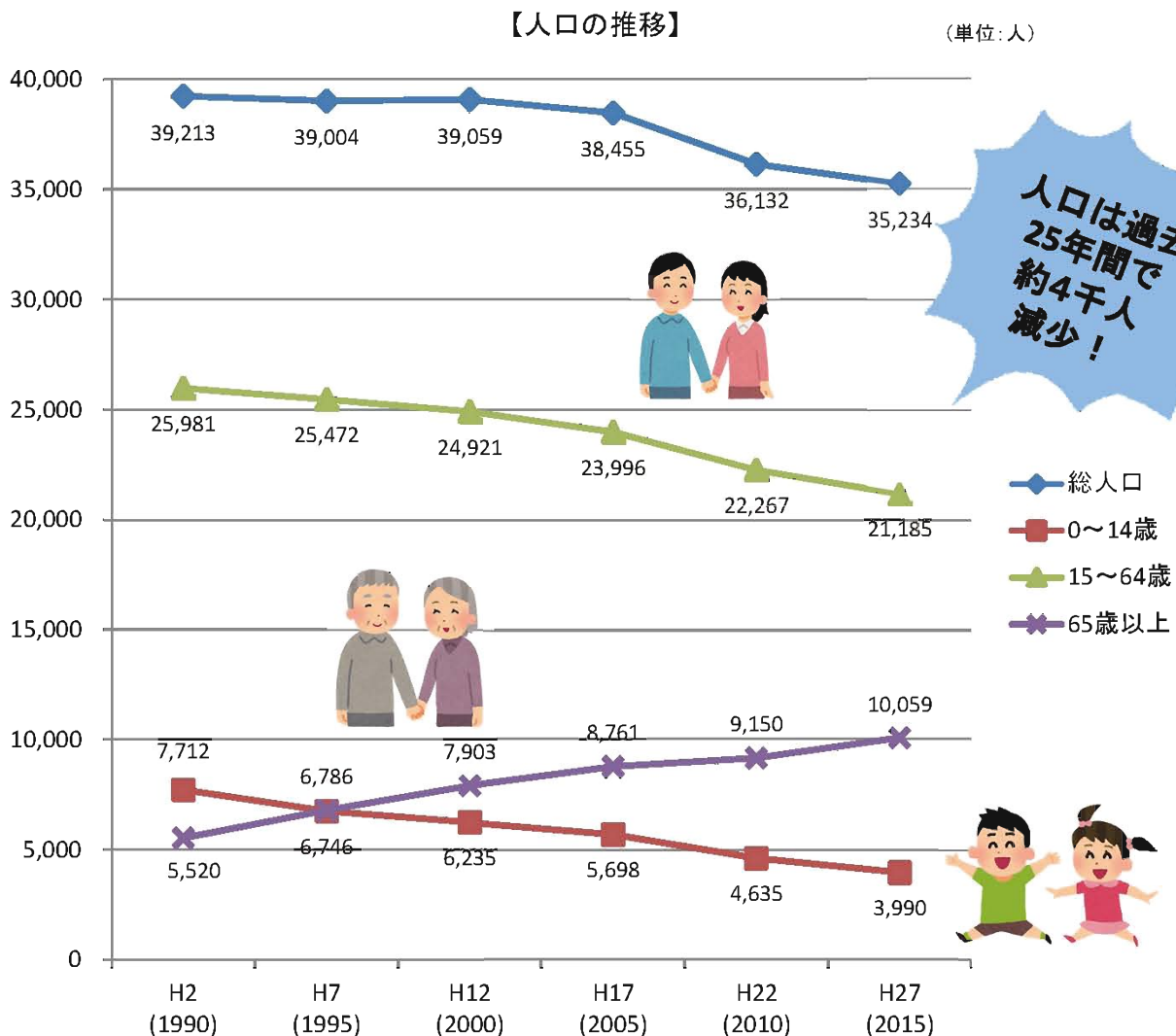
はじめに

わが国は、超高齢化社会を迎えるとともに、人口減少時代に突入し、地域の活力の維持や人口減少克服などの課題に直面していることから、人口減少を克服し、持続可能な未来を切り拓くため、平成31年度までの目標や施策の基本的方向などをまとめた「黒石市まち・ひと・しごと創生総合戦略」と、人口の現状や今後の目指すべき将来の方向を示した「黒石市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」を策定しました。

黒石市の人口の現状

(1) 黒石市の人口推移の特徴

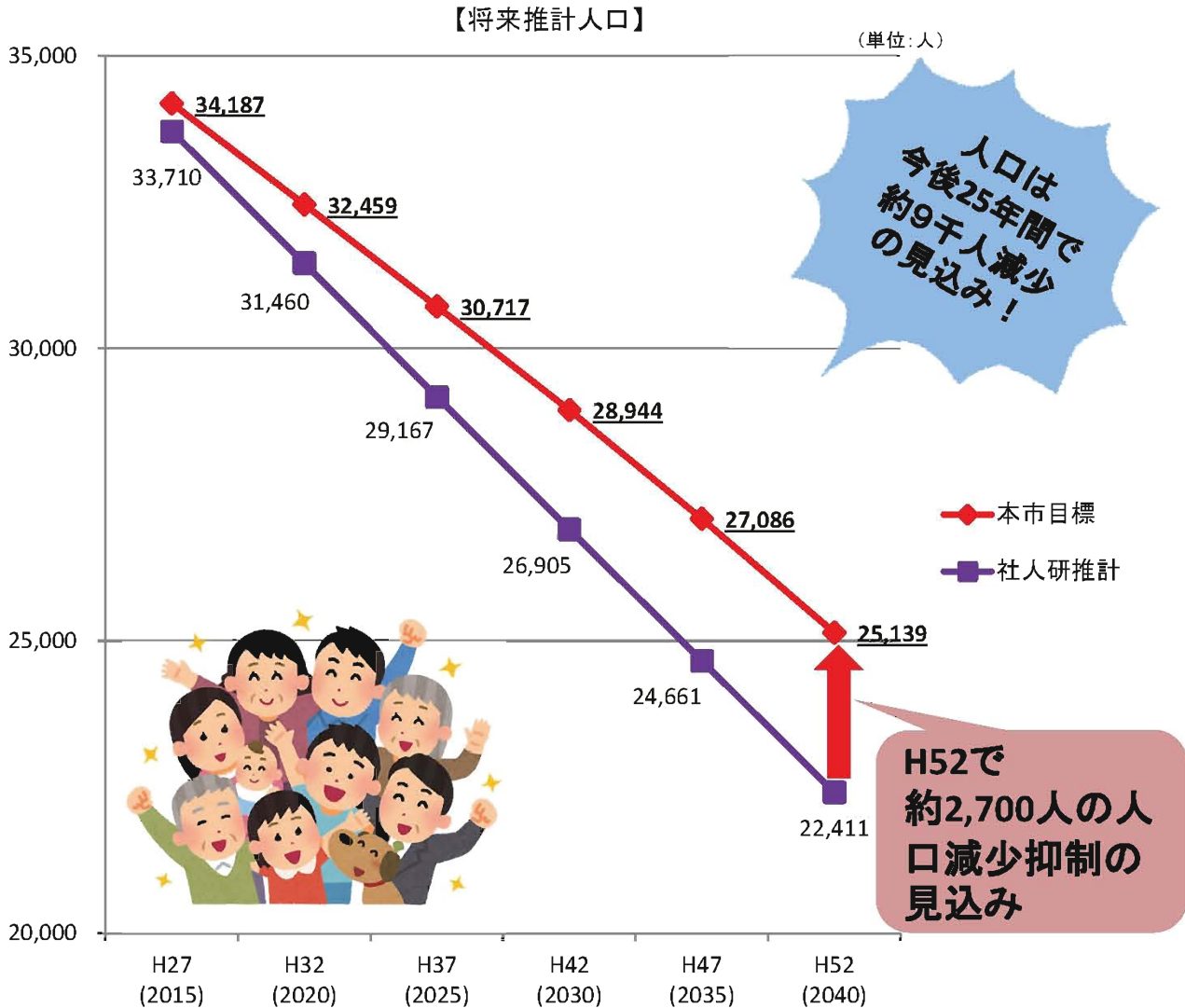
国勢調査及び住民基本台帳による総人口は、平成2年の39,213人から平成27年の35,234人まで25年間で約4,000人の減少傾向となっております。



※平成2年から平成22年までは国勢調査、平成27年は住民基本台帳によります。
※平成22年は、総人口に年齢不詳80人を含むため、内訳合計とは一致しません。

(2) 黒石市の将来推計人口

黒石市では、人口減少のスピード緩和を目指し、25年後となる平成52年の人口約2万5千人を目標とします。



※社人研とは、国立社会保障・人口問題研究所の略称です。
 ※「本市目標」、「社人研推計」ともに平成22年度国勢調査のデータを基に推計しました。
 ※「本市目標」は、合計特殊出生率が上昇し、転出が減少する仮定で推計しました。
 ※「社人研推計」は、現状のまま現状のまま何の対策も講じないとする仮定で推計しました。

(3) 人口減少は早急に対応すべき課題

自然減と社会減の両方が進行する本市の人口減少問題は、地域経済や地域住民の生活に大きな影響を与える極めて深刻な問題であり、その克服に向けて今後も市を挙げて取り組んでいかなければなりません。

人口減少に歯止めをかける対策を早く講じ、出生率がより早く向上することと、若者などの転出を縮小させ市外からの移住を促進させていくことなどにより、地道に人口構造を持続可能で安定した状態に戻していくことが必要です。

※自然減とは、出生数を死亡数が上回る状態のことです。
 ※社会減とは、本市の転入数を転出数が上回る状態のことです。

社会減対策

「しごと」と「新たなひとの流れ」の創生

政策分野1

田園観光産業都市 黒石市における しごとづくり

市内への定住や市外からの移住などを進めるためには、生活の基盤となるしごとづくりが最も重要です。

清流に育まれてきた豊富な農林水産物や地域に古くから伝わる食資源、6次産業化や農商工連携など「食ビジネス」の創出・拡大、地元・誘致・進出企業が有する高い技術力や販売網を活かした業務拡大へのサポートなど、地域に存する様々な資源を活用したしごとづくりに取り組みながら、市の産業全体での労働力の維持に努めます。

また、地域住民が主体となり地域の課題をビジネスチャンスとするコミュニティビジネスの展開を支援します。

○主要事業



■新規就農営農開始支援事業

新たな就農者を支援するため、農地確保のための農地賃借料を補助します。

■農地中間管理事業

農業の担い手への農地の集積・集約化を推進することにより、農業の生産性を高め、競争力の強化を図ります。

■食産業勉強会

農家などを対象とした講習会を開催し、農商工連携・6次産業化の基礎知識の習得や意識改革を図ります。

■黒石市新商品開発支援事業

中小企業等の技術を活かした新商品開発等のための経費の一部を補助します。

■企業誘致・留置活動事業

誘致企業が本市に根付くよう本社訪問や市内事業所訪問などの留置活動や、誘致企業活動に取り組むとともに、企業が求める人材育成を支援します。

○基本目標：2020年（平成32年）

- 地域の担い手（認定農業者）数 410人（2014年（平成26年）349人）
- 次世代の農業を担う青年就業者数 10人（2014年（平成26年）2人）
- 市内事業所数（従業員4人以上） 80事業所（2014年（平成26年）45事業所）
- 市内従業者数（従業員4人以上） 2,662人（2014年（平成26年）2,422人）

※市内事業所数（従業員4人以上）、市内従業者数（従業員4人以上）は「工業統計調査」の製造業に属する事業所（国に属する事業所及び従業者3人以下の事業所を除く。）によります。



政策分野2

田園観光産業都市 黒石市への新たな ひとの流れづくり

歴史と伝統ある文化が感じられる特徴ある観光資源を活かすため、黒石ねぶた・黒石よされなど住民と見物客が一体となって楽しめる祭り、素朴な雰囲気を持つ温泉等の魅力を発信し、広域圏での交流人口の増加を図ります。また、県等が行う首都圏等における移住推進の取り組みと連携するとともに、本市に在住する若者が定住できる条件整備に努めます。

また、移住や定住等を推進するため、地域で生まれてきたコミュニティ力を磨き上げ人々が触れ合う生活空間づくり、市民参加型の社会環境づくりを進めます。

○主要事業

■まちなか活性化事業

小さなまちかど博物館を活かしたまち歩きを推進し、人材育成として地域の活性化に向けた意識の高揚や支援を行い、仮設こみせやかぐじ広場を活用したイベントなど、空き地の活用を図ります。

■黒石よされ事業

市民総参加による黒石よされを目指し、伝統を継承するとともに、老若男女が一体となり、楽しめるまつりとなるよう支援します。

■黒石ねぶた祭事業

ねぶたの歴史と伝統の継承を通じて青少年の健全育成を図るとともに、魅力あるふるさとづくりのため支援します。

■移住体験ツアー実施事業（人口減少対策事業）

移住者向けの体験ツアーを実施し、黒石での生活を実際に体験できる場を提供します。

■地域公共交通網形成計画策定事業

回遊バス（ぶらっと号）・路線バスの経路や弘南鉄道とバスの接続の見直し、スクールバスの導入を検討します。

○基本目標：2020年（平成32年）

- 黒石市観光入込客数（延べ人数） 917千人
（2014年（平成26年）680千人）
- 市内温泉施設宿泊者数 53,200人
（2014年（平成26年）44,264人）
- 移住に関する相談・情報提供の件数 30件
（2014年（平成26年）0件）



政策分野3

若い世代の結婚・
出産・子育ての
希望づくり



人口ビジョンに係るアンケート調査で要望が多かった安心して妊娠・出産できる環境の充実では、市内の医療機関で安心して出産できる医療体制の充実を図ります。

また、アンケート調査で要望が多かった子育て支援の充実では、本市の未来を担う子どもたちが、黒石市で生まれ、希望を持って成長し、その希望をふるさと黒石の地で実現できるよう、家庭、学校、地域を挙げて支援します。子育て世代包括支援センターの利用促進をはじめ、子ども会育成会、児童館、りんごクラブなど若い世代の黒石力を活用した体制の充実に努めます。そして、広い世界観を持ち、文武両道を重んじ、常に思いやりの心を大切にする人づくりに努め、子どもたちの希望をかなえるための環境を整える取り組みを進めます。

○主要事業

■婚活支援事業

婚活イベントを行う団体に対し支援するとともに、婚活支援活動の情報発信を強化します。

■相談・指導・支援、訪問事業

妊娠・出産への不安や子育てに悩むお母さんやその家族が相談できる体制を整えます。

■小中学校適正配置の推進

小中学校の適正配置を進めるため、市民に対して説明会を開催します。

■小学校給食充実事業

黒石市内小学校に給食を導入するための検討を行います。

■リーダーまるかじり体験塾

地域や学校でリーダー的な役割を担っている青少年のコミュニケーション能力を高め、イベントを計画・実践することにより資質向上を図ります。

○基本目標：2020年（平成32年）

- 合計特殊出生率：厚生労働省「人口動態統計」1.31
(2013年（平成25年）1.25)
- 婚活イベント参加者数 100人（2014年（平成26年）0人）





政策分野4

健康都市宣言に 基づく健康づくりと 「黒石力」 (=コミュニティ力)を 活かした地域づくり



平均寿命と健康寿命を延ばすため、平成27年の「黒石市健康都市宣言」に基づき、保健協力員等の協力のもとで市民一人ひとりの健康的な生活習慣づくりや心の健康づくり、スポーツを通じた健康づくりなどを促進する取り組みを進めます。

また、住民の協力による防火や防災をはじめ、廃棄物減量等推進員による地域の清潔保持など、持続可能な地域コミュニティの自律的活動を促進する取り組みを進めます。

○主要事業

- 特定保健指導、訪問指導、特定健診、肝炎検診、各種がん検診、歯周疾患検診、骨粗鬆症検診
健康都市宣言に基づき健康づくりを進めるための各種検診を実施します。
- 市民レクリエーションスポーツ交流大会
レクリエーションスポーツの普及・推進を図るため市民相互交流によるスポーツ交流大会を開催します。
- 地域力（黒石力）向上事業
地域団体のリーダーや公民館職員の資質向上を図るための講座を開催します。
- 自主防災組織の設立と支援に関する事業
災害に強いまちづくりを進めるため、自主防災組織の設立及び活動に対して支援します。
- 黒石市ごみ減量化事業
資源ごみの分別やごみの出し方などを周知することでごみ減量化とリサイクル率向上を目指します。

○基本目標：2020年（平成32年）

■がん検診受診率

胃がん	44.0%	(2014年 (平成26年) 33.1%)
大腸がん	46.5%	(2014年 (平成26年) 37.7%)
肺がん	47.5%	(2014年 (平成26年) 39.0%)
前立腺がん	48.0%	(2014年 (平成26年) 37.9%)
子宮がん	43.0%	(2014年 (平成26年) 29.8%)
乳がん	43.0%	(2014年 (平成26年) 29.7%)



黒石市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本的な考え方

- 「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、人口減少対策の数値目標や具体的な施策を示した計画です。
- 第5次黒石市総合計画における人口減少対策の取り組み方向とも一致しています。
- 計画期間は、平成27年度（2015年度）から平成31年度（2019年度）までの5年間です。
- 市民、企業、関係機関と協力して推進を図ります。
- Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Act（改善）を繰り返すことで事業を継続的に改善するPDCAサイクルにより運用します。



市長から市民の皆さんへ



黒石市長
高 樋 憲

現在の人口減少の流れをすぐに変えることは難しいですが、人口減少の影響を最小限に食い止め、少子高齢化を少しずつ緩和することを目指すことで、地域経済の縮小や地域コミュニティの機能低下など、本市の社会経済への影響を最小限に抑えることができれば、持続可能な未来を切り拓くことができるはずです。

本市は「黒石市まち・ひと・しごと創生総合戦略」と「黒石市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」に基づき、これまでの本市における人口減少の克服に向けた取り組みをさらに加速させ市民、企業、関係機関のみなさんと一緒に行動していきますので、ご協力をお願いします。

- インターネットからも「黒石市まち・ひと・しごと創生総合戦略」と「黒石市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」をご覧ください。

黒石市ホームページ > 行政情報 > 黒石市まち・ひと・しごと創生総合戦略
黒石市ホームページ <http://www.city.kuroishi.aomori.jp/>